

【南九州地区納税貯蓄組合会会長賞】

税と僕たちの生活

霧島市立牧之原中学校

三年 浦底 飛羽

僕が住んでいる霧島市は、温泉が有名です。霧島市内には、霧島温泉郷など、有名な温泉がたくさんあり、国内外から多くの観光客が訪れます。霧島市は温泉が有名だということは、引越してくる前から知っていました。霧島市内の至る所に多くの温泉があることは引越してきてから初めて知り、とても驚きました。霧島の温泉が自分の予想以上に有名だということを感じました。霧島の温泉は入るととても気持ち良く、全身にたまっていた疲れがとれます。これまでに入った温泉の中で、最も気持ち良い温泉だと思いました。

このような温泉に入るために納めなければならない税があることを初めて知りました。それは、「入湯税」という税です。入湯税とは、温泉がある市町村が、温泉に入湯する入湯客に課す税金で、市町村税に分類され、税を負担する人と税を納める人が異なる間接税です。入湯税は、温泉に入った客に代わり、施設の経営者か市町村に納める仕組みになっており、集められた税金は、環境衛生や消防施設の整備、観光の振興などに使われ、貴重な自主財源となっていることを知りました。

入湯税があることを知ったのは、職場体験学習で霧島市の予算についての話を聞いたときです。入湯税があることを初めて知ったときは、なぜ温泉に入るだけで税金を納めなくてはならないのかと考えました。しかし、租税教室で、税金は、豊かで安心した暮らしが送れるために必要な、公共サービスを行う費用を賄うためにあり、税金がないと公共サービスを無料で受けることができなくなったり、学校での授業を受けることができなくなったりすることを学びました。このことがきっかけで、税金に対する考え方が変わり、入湯税も、豊かで安心した暮らしを送るために必要な税金で、税金は、僕たちの暮らしの様々なところで関わっているという考え方に変わりました。

入湯税は、消費税や所得税、住民税などのように、頻繁に聞くような税の名前ではないですが、入湯税も立派な税であり、僕たちの生活に欠かせないものなので、入湯税について詳しく知っておいて良かったなと思いました。他にも、聞いたことが無かったり、知らなかったりする税もたくさんあると思うので、税金についてさらに詳しく調べ、多くのことを知りたいと思います。さらに、これからも税金が多くの人に役立っていることに感謝しながら、税金について考えてみようと思います。